

新宮市立医療センターへ、慈恵会医大から医師派遣が決定

分娩再開へ大きく前進、地元の運動が県を動かしました

2月21日の定例県知事記者会見で、新宮市立医療センターの産科医師確保に関して、県が東京慈恵会医科大学と連携を行い、同大学からの派遣が決定したと発表しました。常勤医師（部長級）が1人、非常勤医師が1人です。4月から派遣されます。また、新宮市と近畿大学の間でも連携協定が結ばれ、近畿大学の医師1人が同大学を自主退職して6月より新宮市立医療センターに着任します。分娩の再開へ大きく前進しました。この間、地元では、子どもが産めない地域には住めなくなるなどと、住民の間では不安が広がり、署名活動に取り組んできました。2月2日には、新宮市選出の濱口県会議員の紹介で、紀南大運動実行員会の代表が県庁を訪れ、県知事あてに陳情を行ってきました。こうした熱心な行動が県を動かしたと言えます。

しかしながら、分娩再開までは、当直体制の確保が課題であり県は引き続き医師確保に努力しているとのこと。

◎県が産科医師確保に向けて新政策を発表

県は2022年度予算案の新政策の中で、産科医師確保のための新たな施策を発表しました。

- ①県立医科大学に寄附講座を開設し、周産期医療の研究をはじめ、産婦人科 医師の育成や診療を支援
- ②県立医科大学に診療科指定（産婦人科等）の入学枠設定を大学と調整

★75歳以上の医療費2倍化中止を

橋本市・林間田園都市駅前署名はがきティッシュを300分配布

橋本・伊都社保協と年金者組合は2月22日（火）に、75歳以上の医療費2倍か中止を求める宣伝活動を早朝より、林間田園都市駅まで行いました。地元から7人と、県医労連・社保協から2人が参加しました。時折小雪が散る冷える中、通勤途上の市民らが署名ハガキ入りティッシュを受け取りました。



★保険医協会が署名ハガキを提供

ティッシュ入りハガキ 3500部

署名ハガキのみ 5000部

是非、活用して下さい。

●75歳以上の医療費2倍化中止を！

署名到達数 6,768筆

目標 35,000筆



「カメ」のポスターが完成しました。活用して下さい。